

毛糸をめぐる交流～園児と中学生の出会いとかかわり～

- ◆企画：エシカルラーニングラボ 有友愛子(附属中学校)・佐藤寛子(附属幼稚園)
 実践：伊藤綾子・灰谷知子・佐藤寛子(附属幼稚園)・有友愛子(附属中学校)

◆研究の経緯

今年度は、中学校との共同研究として、「毛糸をめぐる交流活動」を実施した。本学で取り組んでいる連携研究「エシカルラーニングラボ」での企画である。

連携研究「エシカルラーニングラボ」では、幼稚園から高等学校まで学校種を超え「エシカル」をテーマとして交流授業や成果物交流等に取り組み、その成果を発信している。エシカルとは、「倫理的な」という意味である。多くの人たちが「正しい」と認識している社会的な基盤のことを示し、人や地球、環境、社会、地域に思いやりのある考え方や行動を意味する。

今回の「毛糸をめぐる交流活動」は、「エシカルラーニングラボ」において、園児が秋から冬にかけて毛糸で物づくりをしたり、あやとりや指編みを楽しんだりしているという幼稚園での実践報告を受け、中学校教師から、家庭科の授業(家族・家庭生活(幼児)と衣生活の学習を関連付けた中3の授業)と関連づけることで、互恵性のある学びが生まれるのではないかとという提案があり、計画し、実施することとなった。

◆交流活動のプロセス

以下は、幼稚園側から見た交流活動のプロセスとその後の園児の様子及び、教師の配慮と、幼稚園・中学校教師のやりとりについてまとめたものである。

日時	子どもの姿 ○園児 ☆中学生	教師の配慮・教師間のやりとり
10/17	<p>☆中学生3名 毛糸のオーダーを取りに幼稚園に来園。</p> <p>○突然のお客様で、自分たちに会いに来てくれたということに喜び、嬉しそうに出迎える。</p> <p>☆用件の説明。園児に分かるようにゆっくり丁寧に書いてきた手紙を見せながら話してくれる。 「毛糸を好きな色に染めます。どんな色がいい？何に使いたい？」</p>  <p>○分かりやすく、イラストや大きなひらがなで書いた手紙を見て、子どもたちは興味津々。</p>	<p>・子どもたち同士が会えるよう、対面でのやりとりを計画。感染防止に配慮し人数は制限した。</p> <p>・用件については、口頭では分からない人もいることや保育室に掲示しておくことで、いろいろな子どもたちが目にするという理由から、お手紙にして持って来て欲しいと園から願います。</p> 
10/18 ～ 10/19	<p>○中学生のお手紙を見ながら、「何色がいい？」「何に使おうか？」と教師や友達と一緒に、作りたいもの、使いたいことをイメージしながら好きな色を伝え合い、「お返事書こうね！」と、中学生に手紙の返事を書く。</p>	<p>・手紙は、書きたい子どもたちに、書きたいように書いてもらった。 おそらく「マフラー」と書きたかったのに、「まくら」となっていたり、「もりのみずいろ」や「にじいろ」など、染色には難しそうなりクエストもあったが、読めない字もそのまま、中学生が園児の表現に想像力を働かせて読み解くことに意味があるだろうと、双方の教師で共通理解して進めた。</p>
10/20	<p>☆中学生4名 園児の返事を受け取りに来園 ○5歳児が芋掘り遠足のため、4歳児が迎える。嬉しい来客に落ち着かないが、「なべなべそこぬけ」を友達とやってみせるなど、子どもたちなりに中学生をもてなそうとする。</p>	
10/29	<p>☆附属中学校 令和4年度教育研究協議会 家庭科「願いを叶え 学びをつなぐ～毛糸を染色～」 中学生が、園児のリクエストに応えようと、微妙な色合いや、用途に合わせた分量、扱いやすさや手触りの気持ちよさなどを考えて、試行錯誤しながら選んだ毛糸を染色。</p>	<p>→ ・幼稚園教師も参観。 園児の手紙を読み、どういう思いで何を伝えようとしているのか、想像力を働かせ、相手の思いに寄り添いながら、作業を進めていく中学生の姿を見て感動。 また、電子レンジを利用した染色方法は、園児にも楽しめるのではないかと興味を持つ。</p>
12/2	<p>○できあがった毛糸をもらいに、園児9名と教師2名で中学校まで出かける。中学生からの歓迎を受け、嬉しそうな子どもたち。</p>	<p>・中学校が学内のどこにあるのかを知らない子どもたちも多いので、毛糸の受け取りは、園児が中学校に出かけていくの</p>

<p>12/5 ～ 12 末 3 学期 1/ 2/24</p>	<div data-bbox="258 210 670 517"> </div> <div data-bbox="713 210 944 517"> </div> <p>○たくさんの毛糸と染色するための道具をいただき、園に戻る。 ☆中学生が門まで送ってくれた。</p> <p>○園に戻り、待っていた友達や教師にいただいたお土産を見せ、あったことを嬉しそうに伝える。</p> <p>○染色した毛糸には、染め方のレシピがっていた。染めていないたくさんの白い毛糸と一緒に、計量カップや食紅など、染色できる道具や材料がいっぱい入ったお土産に、待っていた子どもたちも大喜び。</p> <p>○園にクリスマスツリーが飾られ、オーナメント作りが始まる</p> <p>○5 歳児は枝を十文字にし、毛糸を絡ませていくゴッドアイ。 4 歳児は空き箱を包装紙で包み、毛糸のリボンで飾ったプレゼント 3 歳児は、松ぼっくりを毛糸でぐるぐる巻き。</p> <div data-bbox="459 887 962 1167"> </div> <p>○5 歳児が、毛糸を使い、指編みのマフラー作り。それを見た 4 歳児もやりたくなり挑戦。</p> <p>○5 歳児の「親子で遊ぶ日」に、保育室に電子レンジを持ち込み、染色が楽しめる空間を作った。中学生のレシピを参考に、食紅の配合を考えながら、親子で好みの毛糸に好みの色を染めて楽しむ姿が見られた。</p> <div data-bbox="258 1424 999 1630"> </div>	<p>はどうかと考え、相談する。 お昼休みに、中学校の中庭で待ち合わせることにした。</p> <p>・染色した毛糸には、中学校教師の配慮のもと、中学生の手書きによる染め方のレシピがっていた。</p> <p>・いただいた毛糸を使い、3 歳児から 5 歳児まで、みんなで飾り作りを楽しめるよう、まずは 5 歳児から、人通りの多い廊下に場作り。気付いてやりたいと思った人から取り組めるようにした。 作る過程を十分に楽しめるよう、年齢に応じた内容にし、作ったものを飾ってみたくなるように援助した。</p> <p>・園児の様子を中学校教師に伝え、早速、写真入りの掲示を作成し、中学生に伝えてくださった。</p> <p>・いただいた白い毛糸を園でも子どもたちと一緒に染めて使いたいと考え、染色用に電子レンジを購入。 年度末、5 歳児は、自分たちのやりたいこともあり、なかなかゆっくり毛糸を染めることが出来ず。また、食紅を計量したり、お湯を扱うなど、落ち着いた空間や援助の手が必要だと感じる。</p> <p>・3 学期の「親子で遊ぶ日」に保護者と一緒に染色体験ができるとよいのではないかと考える。</p> <p>・染色した毛糸は、織物や指編みのマフラー、あやとりなど、さらに遊びに生かせるように考え、活用していく予定。</p>
---	---	--

◆交流活動の成果

園児にとっては、自分たちの願いを形にしてくれた中学生との出会いは、特別な嬉しい体験となり、園の外へと意識を広げ、学内に過ごす自分とは違う他者の存在を知る大切な機会になった。同時に、中学生が思いを込めて染めてくれた毛糸であるとわかることで、丁寧に大切に扱おうとする気持ちへと繋がっていった。さらには、中学生のレシピをもとに、親子で染色の面白さを味わう機会ともなった。レシピ通りに色を出す園児もあれば、偶然出来た色の美しさに惹かれ、もう一度作りたいと親子で試行錯誤する姿も見られた。

今回の毛糸を巡る中学生との交流では、同じ学内に過ごす中学生と園児とが、互いに他者の思いを受け止め、理解しようとする『他者理解』、「どんな色に、染めたいか」「何に使おうか」とイメージを働かせながら毛糸に触れ、染色に取り組んでいく『創造的思考力』や試行錯誤しながら思い描く色を出していこうとする『探究力』『問題解決力』など、コンピテンシー育成の教育手法として意義があると考えられる。